

268号



新宿発

# 憲法を守り抜く人を 参議院に出そう

参議院に〈志ある女性〉を 1

「公開討論会」があばいた「民主主義」の成熟度

田中喜美子 2

参議院東京選挙区立候補予定者に女性政策を聴く会 4

今こそ平和憲法を守ります 内田洵子 13

おら木の宮城は、女が良くする！ 岡崎トミニ 14

ヒロシマの心を国政に 栗原君子 15

子ども・「障害」者・高齢者にやさしい社会を！ 黒岩秩子 16

非武装平和・生かそう憲法 岡崎宏美 17

女性の手で政治に希望を 清水澄子 18

人と、自然と、平和。ほんとうに大切なこと。 竹村泰子 19

TOPICS ミセス差別にNO！の判決 ほか 20

集会から 歴史歪曲を許さない！つくる会教科書に抗議 26

今年も嵐山に〈あこらメイト〉のワークショップが 32



## 参議院に〈志ある女性〉を

今年の参議院選で、日本は大きく変わるだろう—というのが、昨年後半から年初にかけての市民の期待だった。森政権の支持率は、史上最低の一〇％スレスレ。今度こそ、「私たちの新しい政治」が生まれるだろう—。

期待は、アツというまに急変した。森政権に代わる新総裁選出の自民党劇は、演出に強力な広告代理店やシンクタンクも参加して、テレビも新聞も、広告費に換算すれば何千億円以上にものぼる情報を、毎日、毎夜、流し続けた。

強固な意志の人と宣伝された小泉内閣は、森政権に鬱屈していた庶民感情の反作用として、九〇％近い高支持率となり、それが、「構造改革Ⅱ新しい日本の誕生」という幻想を定着させた。そして東京都議選は自民党の圧勝。革新側惨敗。

気持ち而建て直す余裕もないうちに、参議院選が走り出した。いま、残る希望は、志のある、骨太の女性候補の増加だろう。

政党から立つ人も、立たない人も、革新系女性候補の周辺には、いつのまにか市民・女性の輪がつくられ、日一日と、その輪が広がっている。

厳しい猛暑の中の選挙だが、取巻く輪がふくらむほどに、希望もふくらみ続けている。

千葉知事選は、ほとんど終盤まで、堂本さんはマスコミに泡沫候補扱いされていた。が、終盤、加速度的に盛り上がり、風は渦になった。

〈あごろ〉は特定政党を支持しない原則だが、〈あごろ会員〉の候補者は、国・地方を問わず、選挙の度に支援している。今回は七人が立つ。不戦・不差別・不暴力の〈あごろ〉の志を支え続けてくださった方々だ。期待したい。

# 「公開討論会」があばいた 「民主主義」の成熟度

## 「政策を提言する女性の会」

田中 喜美子

(女性誌「わいふ」編集長)

「政策を提言する女性の会」では、年四回行う「ファミ・ポリティク」(女性のための政治冊子)の発行に加えて、女たちの政治意識を高めるため、年一回、何かひとつイベントを行うように努めている。今年の六月初旬、ひとつ東京地方区の参議院立候補者を集めて「公開討論会」をやってみようか、という案が浮上した。こうして約一か月後の七月二日、私たちは東京ウイメンズプラザで「参院東京選挙区立候補予定者に女性政策を聴く会」を開いたのである。

最初の難関は立候補予定者の承諾を得ることだった。しかし「この人は絶対きませんよ」と言われていた自民党の保坂氏も含めて、不思議なほどスムーズに承諾が得られた。

次に待ち構えていた心配は、ステージで候補者のホンネをどれだけ引き出せるかということ、そしてどれだけの人が集まるかということにあった。

ともかく政治家というものは、実にしゃべるのが上手である。そのなかからどう、ホンネを引き出せるのか――。

コーディネーターを務めることになった私としても、その点まったく自信が持てなかったが、会のと二十人ほどの参加者に感想を聞いてみると、ほとんどの人が異口同音に、K氏とS氏がよかった、というのには驚かされた。言葉だけでなく、その人全体から発するメッセージが伝わるらしい。もともと私の知人には、同じような判断基準を持つ人が多いのかも知れないのだが……。

会場であったアンケートによると、八四％の参加者が「とてもよかった」「よかった」と答えており、参加者も全体で一八〇人近く、まあまあ成功と考えてもいいのかも知れない。

しかし生まれて初めての試みで、開催までのストレスはすさまじく、終わったあとも反省だらけの体験であったが、この会で学んだことは実に多かった。

□ 候補者のホンネを引き出すためには、通りいっぺんの質問ではダメだということ。

□ PRのしかたに猛烈に工夫を凝らさないとフリーのお客がこないということ。

とくに主要三紙に載ったにもかかわらず、新聞の集客力のなさは、驚くべきものがあつた。インターネットを見てやってきた人が新聞の倍あつた。

その他アンケート分析から分かったことはいろいろあつて、紙面の関係で詳細が述べられないのが残念だが（詳細は『ファム・ポリテイク』次号に載せる予定なのでご希望の方は電話をください）こうした政治的集まりに、「ふつうの女性」の参加者を得るためには、よほど知恵を絞らないとだめだということを感じする。

私の結論は、日本女性の政治的関心はまだ「劇場民主主義」の段階にとどまっているということ。とくに二〇代の参加者がまったくいなかったことには失望した。これは教育の失敗というほかはない。





田中さんたちが開かれた「政策を提言する女性の会」は、東京ウィメンズプラザが、ほぼ満員、という盛況。田中さんは遠慮して総括されたが、なかなかおもしろい会だった。ご紹介しようと、内容を録音、掲載許可も頂いたが、厳密に再録するとすると、各出演者の校閲も必要になる。時間的な問題もあり、抄録となったが、情況をご推察頂ければ幸いである。

冒頭の主催者あいさつが終わると、司会の田中さんが登場、「公平を期すために、クジで着席順を決定した」旨を述べて、立候補予定者が登壇。写真左から、鈴木かん(民主)、黒岩ちづこ(無所属)、山口なつお(公明)、保坂さんぞう(自民)、緒方やすお(共産)、広田さだはる(社民)の六人。右端の広田さんはギックリ腰で着席困難、二時間立ち続けた。

内容は、立候補予定者に五つの質問を投げかけて、第一問は、鈴木↓黒岩…の順。第二問は黒岩↓山口…のように、発言順を一人ずつずらし、公平を期すという仕組み。出席者の経歴等は、資料にまとめられており、場内での紹介は

出席者 ●緒方 やすお 日本共産党

- 緒方 やすお 日本共産党
- 黒岩 ちづこ 無所属
- 鈴木 かん 民主党
- 広田 さだはる 社会民主党
- 保坂 さんぞう 自由民主党
- 山口 なつお 公明党

TEL 03-3239-4485 遠山  
FAX 047-464-0132 柳沢

[illegible]

**参加費 無料**

アイムパーソナルカレッジ

七月二日(月)午後六時三十分、八時三十分

東京ウイメンズプラザにて

省略、その分、討論を深めるという工夫も配慮されている。  
回答は一人二分敵守。

## 私が考える女性政策

第一問は「女性政策について」。各候補者一斉に資料を取り出し、真剣な表情。黒岩さんだけは、資料全くなし。

広田さん 「三月末まで慶大の湘南藤沢キャンパスで学生の就職相談を受け、女子学生の差別を痛感。四年前まで在職していた中大の卒業生は現在、職場で奮闘中だが、結婚や育児で差別され、相談が絶えない。女性が社会で生きられるよう努力したい」と、さすが助教らしく、お話し上手。

黒岩さん 「そういう差別をなくすためにも、国・地方を問わず、あらゆる議会に女性議員が増えることが必要」と述べるとともに、四月に制定された性暴力防止法案にふれ、「十月から施行されるが、女性の職業生活が確立されてないため、暴力を受けても離婚できない実情も多い」と、広田さんの話を受ける。

保坂さん 「新年にノルウェーの首相が、出生率が一・八四まで回復したのは、仕事と子育てを両立させる可能性の

ある社会の質の良さにあり、夫婦の将来の展望の明るさ、政府と若夫婦の間に相互信頼関係がある、と誇らしく語った」話を紹介。「一・二四の日本は少子化対策が必要。子育てと介護は社会の責任」とうたっている政党もあるが、それだけでいいのか」と球を投げる。

緒方さん フランスに長く住み、世界八〇か国を訪れた国際派らしく、「女性は社会の鏡。国連開発局の統計では日本は四一位。この改善のためには、賃金差別・昇格差別をなくしていく。これは人権問題。ジュネーヴの人権委員会でも私は問題提起し、発言した。ILOが是正を何度も勧告したが、日本は一〇年前、後進国代表と言われた韓国にも追い越された。女性の政治参加を促進し、女性の尊厳を守る。選択的夫婦別姓でも頑張りたい」と、模範回答。

広田さん 「男女が共に手を携えることが基本。そうすれば国際的にも家庭的にも幸せになる。それを阻害するものを是正したい。一つには経済的要因としての男女差別がある。賃金・雇用・昇進・昇給のほか、社会保険の制度や『一〇三万円、一三〇万円の壁』の問題がある。アンペイドワークも、未来への大事な要素として考



えるべき。社会的生産労働に、有償労働と、そうでない労働の環境を整備したい」と、これも勉強のあとがはつきり。

## どうすれば労働の場で平等を実現できるか

第二問は「労働の場における男女平等を実現するための実際的方法」。今度は黒岩さんから。

黒岩 十五年前に男女雇用機会均等法がつくられ、一昨年改正されたが、まだまだ不十分。厚生労働省の去年の統計では、各県の雇用均等法への救済申し立ては九八件。そのうち五四件が出産・妊娠による解雇。九件が結婚による解雇。申し立てる人は氷山の一角。どんなに女性の状態が悪いかを示している。先日、個別労働紛争解決法が出来て、労働紛争は紛争調停委員会で処理することになったが、委員の過半数が女性にならないければ有名無実になる。委員のクォーター制を実現したい。

山口 現在の統計に出ている数字は、必ずしも実情を反映していない。女性には中途採用、中高年採用が多い。生涯を通じて断絶のない数字が賃金体系に現れてくれば、もう少し

し数字が違うだろう。同一価値労働、同一賃金という原則をあらゆる職場で徹底させるシステムをつくることが必要。同時に子育てと仕事が両立できる環境基盤の整備が必要。

パート労働、有期雇用のように時間が限られた労働は、時間単位によって賃金価値を同一化していく仕組みを徹底することが必要。そのためにはこれを評価し勧告するシステムをつくらなければならないが、法律等で強制するところまでは日本の社会は成熟していない。一步一步進めていきたい。

保坂 労働基準法で男女の差別賃金を禁止しているにもかかわらず、現実はどうでないことは認めざるを得ない。が、各地で女性の側から勇気をもって告発、是正を求める訴訟が頻繁に行われ、かなりの部分で女性側が勝訴している。世の中は一つ一つ変わってきているが、これを推進すべき地方自治体が一番遅れているという実情がある。

先日も大阪地裁で住友生命に賠償命令を出したが、女性の中には最初から、総合職でなくてもいいとか、正社員よりパートを望む人も多い。必ずしも雇用主だけの責任ではない、とあえて言いたいのが、恐らく反論があるかも…(笑)

緒方 女性の平均賃金は男性の約半分。どうすればよいか。労基法の女子保護規定撤廃によってライン労働につく女性が増え、賃金格差が大きくなった。同一労働・同一賃金を徹底させることが必要。

第二に、同期・同年齢の男性との同一昇格がどうしても必要。芝信用金庫の訴訟は私も支援してきたが、東京高裁で勝訴した効果は大きい。こういうふうに関つて勝ち取ってきた前進を社会全体で進めていく。

第三は昇進・昇格試験をだれもが受けることができるようにすることが非常に大事だと思う。これも芝信用金庫の判決で明確にされた。

中途採用の初任給にも相当の差別がある。二五歳で男性は二六万円、女性は一九万円。はじめからそういう格差がある。これをなくしていくことが大事だと思う。

広田 現在の経済が世帯単位でとらえられているというところが社会保険や賃金にも影響している。『主たる生計者』という言葉が残っている。男性が主たる生計者で女性は子育てをし、お年寄りをみながら空いた時間をパートで働くということをは認してきた。その構造を変えなくてはいいない。そこに最大の問題があると思う。

同一価値労働・同一賃金というとき、同一労働をどう決めるか、客観的公平なものがないと進歩しない。

間接差別もある。これは男女差別ではないが総合職と一般職がある。同じ大学を卒業しても女性は内務職員・補助職員、男性は正職員という差別がある。これを是正するのは政治家だけではなくて、男も女も理解しあつて、みんなの幸せのためにどうするのか、どういう社会観、夫婦観、家族観をもつのかから考えることが重要。全部を一度にやるのはたいへんだから、賃金、雇用、昇進・昇格を一つ一つ詰めていく。

規制緩和はいい面もあり、構造改革は大いに進めるべきだと思うが、労働を価格破壊していく要素もあり、そこに女性労働が影響を受けているという面があることも、いっしょに考えていきたい。

鈴木 「男女雇用機会均等法」は、たいへんなつかしい。大学のとき労働法のゼミにいたので一年間ずっとこのテーマを追いかけた。その後、東京都労働委員会でインターンをしたが本当にひどい実態があるのに驚いた。

各先生がお話しになったが、男女同一価値労働に対する同一賃金を法律で徹底する。パート労働、雇用保険、社会

保険の是正も、各先生方と同じだが、この問題はクロだと言いいられないグレイゾーンのところにより多くの人たちが、差別感を感じながらおり、なかなか解消できないところが問題だと思う。

私はITとかベンチャー企業とお付き合いが深い、日本でもITとかベンチャー関連では女性が活躍されているところがたくさんある。男女差別があるような企業で働かなくてもいいように新しい職場をつくっていくことも必要ではないか。私は山口県庁にいたときに、「女性起業家支援塾」を立ち上げさせていた。いま全国に広がっているが、そういうかたちで男女差別のない職場をつくり、雇用機会を増やし、女性を大事にする会社が市場でも強くなっていくのも一つの方法だろう。いろんな戦略が必要ではないかと思う。

## 青少年犯罪の真因はどこにあるのか

第三問は、青少年の犯罪など、子どもたちの病理現象について。山口さんから順次発言。

山口 個人的な感想だが、子どもたちが規範に直面する

チャンスがあまりにも少なくなっていると思う。子どもたちが外界からのいろんな刺激を自分なりに受け止めて、それに対する的確な対応や行動ができる機会を大人たちがつくってあげる必要がある。その最初の段階は家庭にあると思うが、家庭の姿が本来あるべきものからズレている。特に父親、男性の、家庭の中での役割が非常に低下していることを実感している。

外の刺激、例えば暴力とか犯罪とか性表現とかがストリートに子どもに伝わってしまつて、それを子どもが受け止めるバリアがつくられていない。直接的な刺激がある程度緩和する世の中の仕組みをつくっていくことが必要だろう。ひとたびこれが壊されたときの回復措置、救済措置など、ケアの面でのシステムも必要だと思う。

例えば児童虐待を例にとれば、虐待を受けた子どもたちの心のケアを行う専門的な人、それにふさわしい施設が、あまりにも不足している。こういうことに対する対応が早急に望まれる。もうひとつは、芸術とか文化とかが社会に果たす機能をもっともっと重視して、国の政策に取り入れるべきであると考え。

保坂 私は少子化の現象が大きな影響を起こしているので

はないかと思う。いま山口さんがおっしゃった家庭・地域・学校という一連のネットワークのなかで子どもを育てる力が低下しているのではないかと最近しきりに感じる。とくに家庭のなかでの父親の問題がある。『父権』というところにも古く思われると思うが、権力ということではなく、父親も母親も子どもをあまりにも過保護にしたり、あまりにも放置をするなど、子育て能力が低下しているのではないか。一方ではお母さん方は本などで優れた知識を吸収しながら現実には三世代同居がないので知識が伝承されていない。

地域社会における人間関係も希薄化している。他人の子どもを他人が叱つたら親が怒るが、自分の子どものことは親にしか見えないという思い込みは、たいへん恐ろしい。子どもは社会の子どもであるということで思慮すべきではないか。

教育三法が通り、子どもたちにも社会経験をさせようという法律ができた。一方では教育現場でも競争原理が激しく入ってきて公立学校といえども競争社会になっている。教育現場の荒廃は、戦後五〇年の教育の問題点を示しているという気がする。

緒方 子どもの権利条約は、世界の人権宣言のなかで最高のものだが、その中で、受験とか、競争中心の教育とか、教育の異常な事態を指摘している。二番目が暴力的、社会的風潮、性情報の氾濫。さらにリストラとか政治腐敗とかがある。対策としては、基礎学力を充実し、わかりやすいものにしていく。市民道徳を育むなどを大事にしていく。さらに大人の責任として確認していく。そういうことが当然求められていると思う。それを地域・学校・社会、もちろん家庭も含めて一体になってやっていく。

私はコミュニケーションの問題は最大の問題だと思う。例えば私たちは三〇人学級を要求しているが、これはたいへん控えめな要求で、フランスでは低学年は一学級二〇人くらい。米国のクリントン前大統領は一年前に一般教書の中で「教育は低学年ほど大事だ」と、一八人以下のクラスにした。私はそういう方向に進むべきであり、そのための予算をつけるべきだと思っている。

広田 『子は親の鏡』というの古い言葉だけれども、原則だと思う。子の歪みは大人社会の歪みの反映。おじいちゃんやおばあちゃんも含めた大人が本当に見つめないと解決できない。三〇人学級にするとか教師を増やすとか、いろ

んな問題もあるが、文部省が管理教育で、親や教師を抑ええ付けているうえに親が職場や社会で受けている抑圧が間接的に歪みとしてでている側面を冷静に見ないと、子どもの心は開けないのではないかと思う。

そういう意味では子どもの権利条約を、法的に、そして制度的に、行政上のテクニクとして生かすと同時に、いかにコミュニティを親子、あるいは地域、学校に生かすかが重要だと思う。競争社会云々というのは違うのではないかと私は思っている。少なくとも資本主義が発達した近代国家は競争社会です。ですから競争より協調を子どもに對して教えることが重要なポイントだと思う。抽象論ではすまない。切磋琢磨は必要だけれど、根源的には人間は男も女も、親子も、助け合うことを機軸におかなくてはいけない。価値観が根本的に違っていると、細かいことは解決しないし、「二七歳現象」変わらないと思う。

鈴木 私が立候補を決意した最大の理由は、まさにこの教育問題をどうするかということにある。この二年間、東大の元教育学部長の佐伯先生を会長に、私が副会長で全国の一人一人の先生がたと勉強会をやってきた。私自身も毎週土曜日に高校二年生を教えているが、この問題は本当

に深刻だと思っている。原因をひとことと言うのは無理で二時間くらいかかる。あえてひとことと言うと、子どもとしつかり付き合ってくれる大人が少なくとも一人いればなんとかなる。私の友人の学校でも殺人事件が起こったし、私の学校でも引きこもりがある。そういうなかでわかったことは、まさにしつかりと自分と付き合ってくれる大人が必要ということです。

昨年の十二月に国民教育会議主査の金子郁容先生と共著で『コミュニティ・スクール構想』を出させていただいた。これは、いろんな大人との出会いを作り出して、地域の子どもは地域で育てようという考え方。地域にはいろんなコミュニティがあってもいいと思う。私はスポーツコミュニティをつくったが、いろんなコミュニティに子どもが関わることによって、自分としつかり付き合ってくれる大人ができる。そうすれば最悪の事態だけは免れるのではないかと。黒岩 一番の原因は子どもたちが愛されているという実感をもてないということだと思う。物質とかお金とか世間体とか効率を重視する社会の中で、親たちは子どもを愛していると思っても社会的な価値観に知らず知らずのうちに左右されて、子どもに本当の意味で愛情を伝えられない。

親はこっちの方向から愛しているけれど、子どもはそっちの方向から愛されたいと思っている。このすれ違いが大きな社会現象だと感じている。

多くの父親は仕事優先を求められ、多くの母親は一人でも子育ての任にあえいでいるという状態をまですすためには、家庭を重視し、社員を優遇する政策が必要だと思う。そして母親たちには自己実現ができるような施策をしていかなければならないだろうと思う。

私は八年間、登校拒否の子どもたちや障害者と共に塾をやってきたが、その多くの子どもたちは自殺を考えたことがあるし、実際に自殺を図った子どもたちもいた。鈴木さんがおっしゃったように、一人でも寄り添う人がいればよい。その一人になりたいと思いがらやってきた。子どもたちは「黙って自分の話を聞いてほしい」と言い続けている。聞くということが職業であるのがカウンセラーだと思うが、圧倒的にこれが足りない。養成して配置していく

政策を実現したいと思う。

\*

以下、「少子化対策」二十一世紀の望ましい家庭像について、それぞれ二分ずつ意見を述べ、最後に会場からの質問に答えたが、どの問題も、各党各様に猛勉強していることがよくわかった。どの党にとっても、女性票は重要。「女性性は女性が重視している問題を勉強した人にしか一票を入れない」という女性有権者の意識を強くアピールした効果は大きかったと思う。

あえて難を言えば、発言者同士の討論が不十分だったが、最初の試みとしては大成功だったと思う。今後、各地、各レベルでの選挙で、このような試みが行われれば、女性問題、人権問題を現実の政治に反映させる上で大きな力になることは間違いないだろう。田中さんたちの試みに感謝し、この紹介記事がお役に立つことを祈っている。

## 参議院選に立つ〈あいらメイト〉

選挙区四、比例区三人、みんな  
平和憲法を守りぬく方です

(アイウエオ順)





# 今こそ平和憲法を 守ります

## 内田 洵子

一九四一年、中国・牡丹江市に生まれ、母・叔母に守られて帰国しました。決して戦争をしてはならない―これが私の信念です。

いま、わが国の平和と民主主義が揺らごうとしています。「構造改革」が唱えられていますが、弱肉強食の競争社会の「構造」は、ますます強固なものになろうとしています。この国を腐敗させてきた「構造」にこそ、メスを入れたい。

高校国語科教師、PTA副会長、障害者施設ボランティアを経て、新潟市議を十八年。

この経験を生かし、女性の視点を大切にしながら、いのちを守る基本である平和憲法を守り抜きたい。そして、女も男も共に輝く男女平等社会を実現、生活と自然にやさしい社会、個性と自立を育むゆとりある教育、安全な食糧の自給と環境保全型農業を推進します。

巻原発の白紙撤回。柏崎原発にはプルサーマルを導入させず、新潟港の軍事利用は許しません。愛と自然と平和のために頑張り抜きます。

### 新しい時代の新しい政治をつくる 〈志の人〉 鈴木 勢子

「実行する小泉氏」が「憲法改悪を実行」しようとしている今、憲法の旗を高く掲げて国政に挑む内田洵子さん。「反核・反原発の先頭にも立ち続けるこの人を応援しなくては」の思いで、上越地区の女性たちが呼びかけ人となり、勝手連『内田洵子さんと国会へいこう会』を立ち上げました。

『いま、国も地方も女が定番!』内田さんなら、平和憲法を死守し、生活に根ざした課題をキメ細かく実行、女の政治感覚で新しい政治をつくると信じます。

# おらホの宮城は 女が良くする！

## 岡崎トミ子



東北放送のアナウンサーから国会議員へ。それは思ってもみなかった転身でした。考えてみると、河北新聞・大槻壽子さんの女性差別裁判の支援、そして県内各地の取材で感じた東北の根深い女性差別に対する憤りが、私の原点かもしれません。

立法の府に入って、女性や弱者を守る法律を！と思いつけ、衆議院議員から参議院へ。この三年半、参議院では七〇回の国会質問をしました。環境委員として「藤前干潟」「吉野川可動堰」「川辺川ダム」問題に取り組み、ムダな公共事業をチェック。また「NPO法見直し」に加わり、「NPO支援税法」の制定に奮闘。地域では、市民との協働作業による新しい政治スタイルの確立を目指し、「宮城づくり研究所」を広く県民に呼びかけました。民主党・男女共同参画委員長として「男女共同参画社会基本法」「ストーカー行為等の規制に関する法律」に続き、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」成立に成功しました。人権を守り、平和憲法を守り抜くために、これからも、できる限りの努力をします。

これまでも、これから、とことん現場主義を貫く人 大槻壽子

徹底的に調べ、事実に基づいて追及する岡崎さんの姿勢は、二十年間、変わりません。ジャーナリストの感覚と正義感で、これからますます頑張ってくださいね。



# ヒロシマの心を 国政に 栗原君子

九二年から六年間の参議院議員時代、私は「ヒロシマの心を国政に反映させるために」全力を傾けて来ました。その後も、そしてこれからも、私自身、ヒロシマの心として闘い抜きます。

不況・リストラ・国の大借金・政治腐敗は、すべて「利権と腐敗の自民党」が生み出したものです。「変えなければ」という国民の願いを利用して、小泉首相は「構造改革をする」と言います。これに対し、「小泉改革では、暮らしも平和も壊される。栗原さん、どうにかして下さい」との声が寄せられています。

「不良債権の早期処理」では、多数の中小企業が倒産し、失業が増え、高齢者医療等、福祉は切り捨てられます。加えて「憲法九条の改悪」です。それは「国のために死ね」となる日を意味します。九条は憲法の命、人類への愛です。みんなの一票で戦争への道を止めるために、私は三たび立ちました。

ひよ  
日和らなかつた栗原さん 斎藤千代

九年前、栗原さんに初めてお会いした。「なんと素朴な方だろう」というのが、その時の印象だった。広島県の山奥、熊野町で、新聞配達もなさったという。下じもの生活も心も、よくご存じの方だった。温かな栗原さんの国会事務所は、いつのまにか市民の溜まり場になり、「栗原サロン」と言われた。

小選挙区制で、栗原さんが敗れて三年になる。〈信念の人・栗原さん〉を今度こそ勝たせたい。広島に友人・知人のいる方、ハガキ一枚でも出して下さい。

# 子ども「障害」者 高齢者 にやさしい社会を！

ちづこ  
**黒岩秩子**



高校教諭六年、保育所の保母十九年、その後、登校拒否児や「障害」者のための大地塾を開いて八年、今は高齢者の居宅施設「ケアハウスすずかけ」で介護と真向かい、日々、多くのことを学んでいます。

三月から四か月の間、堂本暁子さんを継いで繰り上げ当選で参議院で働きました。

一年生議員は何もできないと思っていたのですが、厚生委員会では直接大臣と交渉、「私でもできる」実感を持ちました。この実感を次の六年で、現実の変革の力にしたい。被差別者のない社会をつくりたい。それが立候補の理由です。

六〇年安保の時は、樺さんの一年下でした。基地のない沖縄、自立した日本は、もちろん生涯のテーマです。

七人の子どもを生み育てたヘンテコおばさん 中村敦夫  
政治をやるには動機が必要だ。社会体験で矛盾や不合理を体験し、やむにやまねず行動に出る。それが本物の政治家だと思う。

黒岩さんは日比谷高校から東大理学部を出ながらエリートにはならず、大変な行動を続けてきた。しかも七人の子どもを生み、育ててきた。ものすごいバイタリティーと情熱である。いつも弱者の側に立ち突進する黒岩さんは失敗談も多い。ヘンな人だ。私は彼女を「ヘンテコおばさん」と呼び、参議院では黒岩さんと二人会派を作り、かけがえのない同志として行動している。

奇人・変人バンザイ 斎藤千代

黒岩さんは確かにヘンな人です。だから、私はピンとくる。純粹で世評を気にしない。だから考えた時には行動している。国会にきつと新しい風が吹きます。



# 非武装平和 生かそう憲法

ひろみ  
岡崎宏美

はつきり言います。私は対決します。

小泉内閣で「痛む」のは国民のくらし。

大量失業、社会保障制度の改悪、戦争への道。

ぜったい許さない。

五一年、神戸市生まれ。高校卒業後、兵庫県の国民年金の仕事に就きました。

結婚し、育児をしながら働くむずかしさを実感し、労働組合の活動に参加、九〇年二月、土井たか子社会党委員長の提唱で「ふつうの働く女」が大切と立候補、当選。九三年再選、労働委員会などに所属、働く女性の権利拡充に力を注ぎました。

PKO法案、消費税アップ、小選挙区制に反対し続けただけに、旧社会党の変節に深く失望、新社会党結成に加わりましたが、九六年の総選挙で小選挙区制に阻まれ、得票を大幅に増しながら議席を失いました。今回も非常に厳しい状況ですが、非武装平和、沖縄の基地撤去を実現するために立ちました。

## 筋を通し抜く一徹な人 西脇千繪子

正直でウソがない人柄にひかれました。現職のときにはほとんど話をすることがなかったのですが、新社会党になり「新」がついてから、彼女の徳でしょうか、初めて選挙で自ら応援したいと思うようになり動きました。

彼女は、ものに執着しないで、理想をひとつでも前に進めることができたらいと思うズバぬけた行動力の持ち主。国会で本当に力になる人です。

# 女性の手で 政治に希望を 清水澄子



私はこの十二年間、いのちやくらしの声と思いをも政策に託し、女性運動、市民運動と国会をつなぐことを私の役割にしてきました。女性にとって仕事と育児の両立は基本。雇用保障、社会保障、自立支援に取り組み、経企庁政務次官としてアンペイドワークの評価基準づくりをしました。超党派の議員による子ども買春、ポルノ禁止法の制定は国際的にも評価されました。

これからは、女性に対する暴力禁止法、避妊や中絶の自己決定の法律の制定、パートの均等待遇、マイノリティの人権問題、女性福祉や民法の改正など、女性政策の充実に全力をあげます。

地球と人類の未来のために有害物質対策を進め、安全な食べ物、きれいな水と空気を回復させます。原発政策を転換させ、自然エネルギーを推進します。

年金・介護保険・医療を充実し、公正・公平な社会づくりをめざします。

平和憲法の理念を生かし、核廃絶をすすめます。

アジアの一員として、日中友好、日朝国交正常化の実現に力を尽くします。

未来に希望をもてる政治を創るために、ごいっしょに歩いていきましょう。

**私たちも清水さんを応援します**

清水さんは、福井県働く婦人の会事務局長から田中寿美子議員の秘書、日本婦人会議議長を経て、八九年以来、参議院で活躍。油ののりきった政治家です。

内海愛子／神山美智子／北沢洋子／久保田真苗／酒井和子／佐々木静子／林陽子／

三木睦子／吉武輝子／津和慶子／土井たか子





# 人と、自然と、平和 ほんとうに大切なこと 竹村泰子

「心の通いあう学校づくりを」

「人が人に優しくなれる社会に」

「戦後補償問題をしっかりと成しとげて」

「差別や人権侵害がない世の中を」

「税制・年金・社会保障制度の見直しを」

「遺伝子組み替え食品は不安。安全で安心なたべものを」

「女性や障害者の働く場をどんどんつくらう」

「コンクリートから緑のダムへ」

皆さんからのこんな声が、どれも胸に深く響くのは、視覚障害者への朗読奉仕、独居老人の訪問ボランティア、「いのちの電話」などの活動が続けながら、反戦・反核・平和運動に情熱を注いできたからでしょう。

八三年衆議院議員に、八九年からは参議院で、人権・平和・反原発・環境問題で頑張ってきました。子どもたちの未来のためにも、これからも「ほんとうに大切なこと」を大切にしていきます。

## 一所懸命な人 佐藤和子

民主党にはいろいろな人がいますが、竹村さんは、数少ない市民運動出身の活動家。反戦・反核・反原発への思いは、一貫して変わありません。竹村さんのような人が票を伸ばせば、民主党も市民に更に信頼される党になると思います。

## ミセス差別にNO！ 住友生命に九千万円の賠償命令

住友生命保険の女性社員十二人が、「既婚を理由に昇給・昇格で差別された」と訴えていた通称ミセス裁判が、見事勝訴した。

六月二七日、大阪地裁・松本哲弘裁判長は、「既婚を理由に一律に低く査定するのは人事権の乱用」として、全員に違法な差別があったことを認め、住友生命に未婚女性との差額賃金や感謝料など、総額九千万円の支払いを命じた。

旧労働省大阪婦人少年室が調停の不開始を決めたことに對する国への感謝料（一人百万円）の請求は退けられたが、既婚者への昇給・昇格差別を争った訴訟は初めてで、この勝訴は企業の人事管理に大きな影響を与えるものと思われる。

住生側は、「既婚女性は産前産後休業や育児時間の取得、家庭責任の増加で、労働の質・量が大きくダウンする。昇

格の差はあくまでも公正な人事考課に基づくもの」と反論していたが、松本裁判長は「労働基準法で認められた権利の行使を制限し、違法」として退け、「全体として、既婚女性と未婚女性とで昇格に顕著な格差がある」とした上で、個々の原告について検討。十二人中九人について「未婚女性と同程度の役職に昇格させるべきだった」と認め、残り三人も「既婚を理由に不当に低く評価された」として、一人あたり約一、一五〇万～一四〇万円の損害を認めた。

原告代表で勤続四一年の渡辺康子さん（五八）は、長男のために三〇分の育児時間をとって出勤すると、自分の机が窓際に移されており、資料一〇〇枚を印刷する仕事しか与えられなかったという。あと二年で定年だが、まだ役職はない。松本裁判長は、渡辺さんに限らず、結婚・妊娠・出産時に、強い退職勧奨や上司からの嫌がらせがあったことを認定している。

今回の勝訴は、根強い企業慣習に大きな警鐘を与えるものだが、現実には未婚・既婚の差以上に、男性との格差は

著しい。今回は既婚者が、未婚者同様、勤続二五〇三年での昇格を求めたものだが、男性は入社五年で昇格している。住友勝訴は、今後の法廷闘争に大きな光を投げかけたが、闘わなければならないことは、まだまだ山積している。

## 政府、女性国家公務員の採用・登用拡大を指示

政府は、昨年十二月十二日に閣議決定された男女共同参画基本計画に基づいて五月二一日に人事院が策定した「女性国家公務員の採用・登用の拡大に関する指針」を検討する方針を打ち出した。具体的には次のとおり。

- ①女性職員の採用・登用状況を把握し、現状分析を行う。
- ②採用試験合格者に占める女性の割合の目標を設定し、実現するようにする。
- ③研修の対象となる女性職員の割合にも配慮する。
- ④昇任・昇格についても目標を定め、達成する。
- ⑤二〇〇五年度までの目標と、目標達成に向けての具体的な取り組み等を定めた「女性職員の採用・登用拡大計画」の策定を行う、など。

一般に女性は試験の合格率が高いが、なぜか国家公務

員・上級職の試験は男性よりも格段に合格率が低く、問題になっていた。一種のクォーター制が敷かれるのはありがたいことだが、これに甘んじないで、なぜ合格率が悪かったのか(問題の設定に問題があるのか、優秀な女性が官僚になるのを望まないのか等)、調査することも必要のように思われる。

## 政府、「仕事と子育ての両立支援策」を発表

男女共同参画会議に設置された初めての専門調査会、「仕事と子育ての両立支援策に関する専門調査会」は、六月十九日、「仕事と子育ての両立支援策に関する提言」を含む最終報告書を発表、同調査会は目的を終えたとして廃止された。提言の主な内容は、◆両立しやすい雇用形態や処遇、弾力的な労働時間制をとるよう企業に指示し、実施した企業には税務上の配慮等、支援する。◆育児休暇・出産休暇の十分な活用を求めるとともに、父親の出産休暇全員取得を目指す。◆企業の両立指導を開発・公表し、優良企業は首相が表彰する。◆形式上、期間雇用者であっても、契約上、期間の定めなく雇用されている者は育児休暇の対象とする。

◆学校の空き教室の利用や民間活力の活用等により、待機児童ゼロ作戦を展開する。◆多様で良質な保育サービスの提供。◆必要な地域すべてに放課後児童対策を実施する。

◆ファミリーサポートセンターなどを整備し、地域こそつて子育てをする 等々、この数十年間、女性たちが提唱し、運動してきた内容が、ほとんど盛り込まれている。「実行の小泉」さん、本当に実行してください。

## 意欲的な男女共同参画白書

内閣府男女共同参画局は、六月二十九日、「平成十三年版男女共同参画白書」（平成十二年度男女共同参画社会の形成に関する年次報告）及び「平成十三年度において講じようとする男女共同参画社会の形成の促進に関する施策」を発表した。報告は、カラー版の図表を多数盛り込み、さすが「白書」で売り出した坂東局長らしい意欲作。（統計図は女性問題を考える上での必須の資料でもあるので、「あいら」誌上でも順次紹介する。）

一方、「施策」には、制度・慣行の見直し、意識改革に始まり、雇用における均等な機会と待遇の確保 農山村漁村

における共同参画、両立支援、暴力の根絶等々、あらゆる面での改善策が盛り込まれている。共に、第一五一回国会に提出されたもの。

## G8外相会合も「女性登用」をうたう

ジェノバ・サミットに先立ってローマで開かれたサミット外相会合は、七月十九日、「紛争予防・平和維持のために女性の才能を活用、国際機関への女性の進出を促し、紛争の予防や解決段階での女性の貢献と民間関与を高める」ことをうたった「ローマ・イニシアティブ」を発表した。

朝日新聞七月二〇日朝刊は、「サミットで女性の役割を取り上げるのは異例」としたが、昨年十月三十一日の国連安保理が全員一致で「女性と平和・安全保障理事会決議（S／RES／一三三五）を採択、「国連の平和活動ならびに活動現場に派遣する女性職員を増員と、国家・地域・国債レベルの意志決定過程への女性の参加促進」を各国に要求したのを受けたもの。この安保理の採択は、政府代表だけでなく、各国のNGOの女性たちの長年の働きかけによる。今年三月に国連で開かれた女性の地位委員会（CSW）が、

この決議を祝い、今後の活動の展開について、約千人の政府代表とNGO代表が話し合ったことは『あごろ』267号で紹介したとおり。いま、その存在そのものを問われているG8としては、二一世紀の展望として、今後ますます「女性とNGOの活用」をうたうことになるだろう。

## 参議院選の女性立候補率は約四分の一

参議院の改選は七月二十九日。七月一二日公示されたが、

選挙区七三議席に立候補は女六九、男二三、計一九二名。比例区は四八議席に女五〇、男一五四、計二〇四名。女性の割合は、選挙区二三・六％、比例区三四・五％で、それぞれ四分の一弱。

なお、〈あごろメイト〉は、選挙区四名、比例区三名の計七名が立つ。それぞれラストスパート中。

## WINWIN、女性候補十二名を支援

「女性を政治の場へ」の運動を続けている〈WINWIN〉は、今回の参院選では民主四名（熊本選挙区二こうやま真

理子、比例区二片山みつよ／幸田シャミン／樋口恵子）社民三（神奈川選挙区二上田けいこ、比例区二田嶋陽子／船橋邦子）自民党二（群馬選挙区二吉川まゆみ、比例区二有村はるこ）、自由党二（埼玉選挙区二小宮山泰子、比例区二村本理恵子）、無所属一（東京選挙区二黒岩秩子）さんの支援を公表、活動に入った。揃いのTシャツも作製、資金活動のほか街宣も行うが、資金豊富な政党まで支援する必要があるのか、の声も、ちまたからは出ている。

## 沖縄市議選、女性五名、全員当選

七月八日の沖縄市議選に立った女性五名（社民・社大・共・公・無所属各一名ずつ）は、狩股信子さん（社民）のトップ当選を先頭に全員当選。組織票を持たない高畑鈴代さんは前回同様、気のもめる出足だったが、今回は四人中、十四位で当選。一同、大よろこび。

## 都議選候補者に、国際婦人年連絡会がアンケート

国際婦人年連絡会は、六月二四日の都議選に、女性の政

治進出をすすめようと、各党に、①女性候補擁立の予定数とパーセンテージ ②男女平等参画で都政でとくに訴えたいこと、実現したいこと ③東京女性財団の廃止に反対か、の三項目のアンケートを依頼。六月初旬、結果を一覧表にして各団体に配布した。

①のパーセンテージでは、自民4、公明4・3、共産25、民主27・3、社民67、生活者ネットと自治市民は共に百パーセント。②は、自・公が内容が希薄。③は、自・公・民以外、すべて反対という回答だったが、選挙の結果は、女性票の極端に低い自・公が完勝。共産は激減、社民は一名も当選せず全滅。都の女性には、女性問題よりも小泉ブームに浮かれたという情ない実情を露呈した。ただ、全員女性の生活者ネットは、六人が全員当選。公明党とともに当選率一〇〇%だった。

## 沖縄地検、強姦罪で米兵を起訴

六月二十九日、沖縄県比谷町での二〇代女性への米兵の暴行は、日米地位協定の危さを暴露。沖縄をはじめ全国各地で連日デモが続いたが、ようやく米兵を逮捕、那覇地検は

七月十九日、米空軍嘉手納基地の軍曹ティモシー・ウッドランド（二四）を強姦罪で起訴した。同軍曹は訴訟事実を認めておらず、公判でも無実を主張する方針という。

## 第一回「男女共同参画週間」実施

「婦人週間」と言えば、戦後女性が初めて投票権を行使した四月だったが、男女共同参画社会基本法の実施を記念して、今年から六月三十一―二十九日が新たに「男女共同参画週間」となり、各地で行事が催された。

東京では、六月二五日、厚生年金会館大ホールで、式典・標語発表、男女共同参画社会づくり功労者発表が行われたほか、各界有識者と功労賞受賞者の祝賀懇談会等の催しがあつた。

## 「男女共同参画形成推進功労者」に春の叙勲

基本法施行を機に、政府は、長年にわたり男女共同参画社会づくりを支えてきた個人を「男女共同参画形成推進功労者」として叙勲の対象とすることとし、五月十一日、総



理大臣官邸で、平川浩子（広島）、政野澄子（福井）、三浦タカコ（大分）、水野三重子（岡山）の五氏に勲五等宝冠章の伝達式があり、その後宮中で拝謁が行われた。

## 育児・介護休業法改正案は継続審議に

子どもが病気になった時に仕事を休める「看護休暇」導入の努力義務や、就学前の子を持つ社員が時間外労働の免除を求められるようにすることなどを盛り込んだ「育児・介護休業法改正案」は、六月初めに衆議院本会議で趣旨説明が行われ、厚生労働委員会に審議が付託されたが、他の法案の審議に時間がかかり、審議に入れないまま「継続審議」になった。

改正案には、「育児休業の申し出や取得を理由に不利益を与えてはならない」とする禁止項目や、「転勤に際し育児や介護に配慮すること」なども含まれており、期待されているだけに残念。

## 在韓被爆者勝訴 国は手当を支給せよ

敗戦直前、広島で被爆した韓国原爆被害者協会の元会長さん（七六）が滞日中に取得した被爆者健康手帳を帰国で失効させられ、国と大阪府を訴えていた訴訟で、六月一日、大阪地裁三浦潤裁判部長は、郭さんの健康手帳を有効と認め、手当の未払い分、約一一六万円と今後の手当の支給を命じた。

国は、「税金でまかなう社会保障制度は、日本社会の構成員でない海外居住者には適用されない」と主張したが、判決は「被爆者救済法は人道目的の国家補償的な性格もある。違憲の恐れもある」と、退けた。

## 元軍人・軍属韓国人遺族が賠償請求で提訴

アジア太平洋戦争で旧日本軍の軍人・軍属にされた韓国人とその遺族二五五人が、六月二九日、二四億円余の賠償を国に求めて東京地裁に提訴した。原告は韓国と米国に住、六六人が遺骨返還、一六人が生死の確認を求めており、「靖国神社に勝手に合祀しながら、戦死の知らせを受けたのは三〇年後」と、靖国合祀に強く憤る遺族もいる。



語版出版を記念して日本各地を巡回するスピーキングツアーの一つ。マーシャル先住民女性で核研究所所長のメアリ・シルクさんと、ニュージーランドの平和運動家ケイト・デユースさんの証言は、想像を絶するものだった。

アメリカは五四年三月、世界初の水爆、暗号名ブラボーをビキニで炸裂させたが、これは広島型原爆の一千倍の破壊力があり、六七回の実験で、六つの島が蒸発してなくなつたという。

ビキニでの最初の実験の時、住民には全く何も知らされなかった。数年後、くらげベビー（ジェリーフィッシュ・ベイビー）と呼ばれる頭もなく手も脚もないクラゲのような赤ちゃんや、ブドウの房のような赤ちゃんが生まれ始め、流・死産も多発、多種類のがんが増えているという。ビキニとロングラップ島の人びとは、いまだに自分の島に帰ることも許されていない。

広島の数倍の水爆を「ブラボー」と名づけたとは。底にあるのは根深い人権蔑視・人種差別だ。パラオでは七九年に非核憲法を制定したが、南太平洋では今も、もの言えず苦しみ続けている人が多いこと、核に最も敏感な日本人でさえ、その事実をほとんど知らないことを想い、胸がうず

いた。

(あ)

## 裁判官のアタマを変える方法

住友生命・芝信用金庫などは胸のすく判決が出たが、住友電工はヒドかった。この裁判長は、いわゆる「札つき」。ついに忌避申し立てとなった。同じ司法試験合格者でも、個人差が大きい。裁判長の石頭は、どないすれば変えられるん？ W W Nと大阪府男女協働社会づくり財団の共催で、六月三日、大阪・ドーンセンターに、アメリカの女性弁護士を招いてシンポジウムを開いた。

石頭とは、つまりジェンダー・バイアス。「女性はどうあるべき」など固定観念のある裁判官は、女性に厳しい判決を出す。米国では二〇年も前から、裁判官への教育活動に取組んでいる。その非政府組織「全米司法教育プログラム」(H J E P)の代表、リン・シャフランさんを招いての集いとあって、会場は満員。

まず、ビデオ「二世紀を切り開く住友裁判」(制作W W N)を上映。乗井弥生弁護士の挨拶の後、宮地光子弁護士が「日本の雇用裁判にみるジェンダーバイアス」を問題提

起。住友裁判で憤った宮地さんの話は迫力満点。それを受けて、リン・シャフランさんは、米国の司法教育は一九六〇年代、国立司法大学院の設立と共に始まり、各州と連邦の裁判所はそれぞれ司法教育部門を設立し、新しく裁判官になった人はもちろんのこと、在職中の人も、最新の問題の学習に参加していたが、七〇年に、住友裁判とよく似た事例をきっかけにNOW（全米女性機構）が女性の権利救済を目指した立法と教育のための〈NOW法的保護と教育基金〉を設立したのがHJEPの起源だと説明。固定理念を崩すプログラムを、具体的に解説された。

米国でも、家事という「見えない仕事」についての認識がなかったこと、また、暴力亭主とは離婚すればよいと考えられていたが、夫は離婚によって妻を支配できなくなるので、離婚によって暴力が激化することが多いことなどが、教育によって理解されるようになったことなど、具体例が次々に紹介され、新鮮な刺激を受けた。リンさんは、すつきりとステキな感じの人。自分たちだけで聞くのがもったいないようなお話だった。

このセミナーは、福岡のWWNの林弘子教授が中心になり、石原豊子さんたちの努力で開催にこぎつけた由。福岡・

大阪、両方のWWNに感謝した。くわしい内容はWWNのブックレットになる。期待している。（沢田和子）

## 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議

基本法が出来て、「婦人週間」が四月から六月に、名称と共に変わって最初の全国会議。例年、代理で終わる首相挨拶も今年は小泉さんが…と、前評判に会場は満員。「ポリの人波をくぐって入場することになる」とおどかされて厚生年金会館に着いたが、意外にすんなり入場できた。

冒頭、坂東局長からの、「首相が話す予定でしたが…」に、会場は爆笑。やつぱり…。

しかし、今年はなかなか聴きこたえがあった。

まず太田大阪府知事の基調講演「大阪からひろく男女共同参画社会」。太田知事については千秋楽の土俵云々くらいしか東京には情報がないが、体躯堂々、声も大きく力強く、大阪が女性知事になって、いかに変わったか、非常に説得力のある話だったのには感心した。

続くシンポジウムは、「国と地方が共に進める男女共同参画」。女性センターの長になった下村満子さんと、元、長の

深尾凱子さん、中大教授で男女共同参画会議専門委員の岡守穂さん、そして自治体の長、東京杉並区長の山田宏さんがパネリスト。福島で「出前講義」など、バリバリ新機軸を打ち出している下村さんの話を中心に、コーディネーター鹿嶋敬さん（日経論説委員）が巧みな手綱さばき。政府のいう「地方分権の時代」も巧みに盛り込みつつ、新鮮さも感じさせた内容。坂東さんの初仕事らしいさわやかな会となった。

それにしても、毎年増上に並ぶ十人ほどの男女共同参画推進功労者、五十年にもなるというのに、今まで各地の女性運動を担ってきた〈あごろメイト〉の表彰は、ただ一人だけ。やっぱり「お国」に尽くさなければダメなのかな？ など、小泉構造改革についての考え及んでしまった。会場の周りでは、「杉並区長が働く女性を使い捨て」「女性センターの女性職員差別」のチラシが、黙々とまかれていた。

（ま）

『あごろ』を読みそうな方をご紹介します。

あなたのお名前で見本誌をお送りします。

廃刊の危機にさらされながら、「灯を消さないで」の声に支えられて刊行をし続けている『あごろ』。危機解消のために会員増キャンペーンを始めました。

「会員になりそうな方」の、ご住所、お名前をお知らせくだされば、見本誌をお送りします。バックナンバーの中で、その方に向きそうな号のタイトルも、ご一報ください。あなたのお名前で、お贈りします。

〒160-0022 新宿区新宿一―九―四―三〇三

TEL 03・3354・3941 FAX 03・3354・9014

Eメール XLV05476@nifty.ne.jp

# 語りかけたいあなたへ 37

大里知子

身長なんメートルあるの？

私の甥の大は、今、高校三年生。彼の父親（私の兄）の出身校である秋田高校へ進み、秋田市で下宿生活をしている。先日、ちょうど帰省していた大を見て、家にみえた方が「わー、大きい。身長なんメートルあるの」と言っているのを聞いて、思わず笑ってしまった。

現在、大の身長は一九一センチ。彼は早くも一八〇センチの父親を追い越してしまっている。身体は大きいんだけど、彼が生まれた時から一緒に暮らしている私のことを、名前がはつきり呼べなくて『とうちゃん』『とうちゃん』と言っていた時期もあったのだから、私からみればまだまだ可愛いという気持ちにはなかなか抜けそうもない。

病院を拡張するために、両親と私が住んでいた家を取りのぞき、その土地に四階建ての鉄骨の建物を建てた。そして、二、三階が病室で四階のフロアが、兄の家族に両親と私の一緒に住まいとなったのは、大が生まれる七か月前の一九八二年秋のことだった。

大が四歳の時、私の父が亡くなったが、それまでは八人家族だった。ある日みんなそれぞれ出かけて、大と大の母親に私の三人で夕飯をすますことになった。

いざその時間になると、家族が多いことに慣れている大は、あまりにも食卓が寂しいことにふっと気がついたようで、突然、「これしか、いないの？」と、涙ぐんでしまった。今でも時々、この時のことが身長

一九一センチの太と、鮮やかに重なつて思ひだされてならない。大は、小さい時から素直で静かな子だった。三つ子の魂百までと言われるように、彼の性格は、今もおだやかで優しい。私が、何かやってほしいことをたのむと、こころやすくやってくれるし、誰にたいしても同じ態度で接しているのには感心してしまう。この気持ち、いつまでも持ち続けてほしいと希っている。

親愛なる期待の星、五月生まれの大へ

お誕生日おめでとう。

生後でもない頃、私の腕の中におとなしく抱かれています。あなたの写真を見ると、十八年の歳月が瞬く間に過ぎていったような気がしてなりません。この十八年の間に、あなたは身長一九一センチの青年になり、私の方は、あなたも分かるように日増しに体力が減退し、身体が自由が奪われていきました。私は身体が次第に動かなくなること、悩み苦しみました。それは私が赤ん坊の時から身体が不自由なため、ある程度年齢を重ねると、こういう症状が出るのが当然と理屈では分かっていたながら、なかなか割り切れませんでした。でも、近ごろようやく自分の心の中で割り切れるようになったのです。

あなたは、来春の大学受験が近づいてきましたね。

あなたが、どんな方向へ進むのか、まだ聞いていません。

自分のやりたいことをやるほうが一心に打ち込めると、私は思います。

時には闘争心を燃やし、一所懸命に何かに挑戦してみることも、若さというものを感じることでないのでないでしょうか。とにかく、人生は短い。若い時もあつという間に過ぎていきます。

私が、あなたに言いたいことは、自分のすることにある程度の緊張感と誇りを持って、生きてほしいと思うのです。

知子

# 8月24日(金)〜26日(日)女性学・シエンター研究フォーラムでお会いしましょう 今年も嵐山に〈あごらメイト〉のフューリングシップがたくわん…

24日(金)

16時〜18時

女性がいきいきと働くために……ネットワークのつくり方(さわの会)(大阪)  
戦争とシエンター(あごら沖繩)

25日(土)

9時半〜11時半

職場での女性の地位向上と裁判 提訴から高裁勝利までの14年(あごら新宿)  
中高年女性と労働市場(日本向老学会会)(東海)

〃

13時〜15時

女性が生き方、働き方を選べる時代ですか？(共生ネットワークTekuTeku)(鹿児島)  
住友裁判最前線・シエンターバイパスを持つ裁判官を忌避！(WWN)(大阪)  
ハツファップスクール鹿児島(鹿児島県内の女性職員を百人にする会)

〃

16時〜18時

女性への暴力ホットライン、開設から見えてきた山口県の実態(女性への暴力ホットライン山口)  
農村と都市の共同参画 女性の起業は何をめざすか!!(WAN「女と農」ネットワーク)(神奈川)

26日(日)

9時半〜11時半

岡谷鋼機女性差別裁判(おかの差別をなくす会)(東海)  
NPOと男女共同参画(NPOウイン女性企画)(東海)

〃

〃

結婚・離婚・労働(五年別居離婚に反対し、女性の自立を考える会)(東海)  
桑名市の男女平等参画推進条例づくりへの取り組み(くわなウイン)(三重)

8月24日(金)夜、宿泊棟で〈あごら交歓パーティ〉。どなたも参加を！

◆場所は国立女性教育会館(NWEC)

池袋から特急で一時間。東武東上線「武蔵嵐山」駅下車

TEL 04993・62・6711

あごら 268号

●発行2001年7月10日

●編集 あごら新宿

●発行所 あごら MINI 編集部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.ne.jp.

●定価 本体643円+税 ●振替 00100-0-5264





